

市町村のまちづくり

佐和駅周辺地区のまちづくり

～やすらぎと潤いにあふれ、快適に暮らせるまちづくりを目指して～

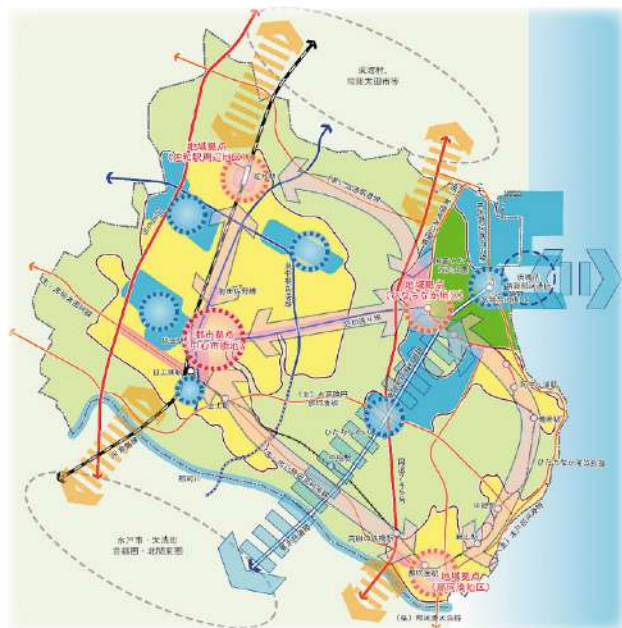
ひたちなか市都市整備部都市計画課 係長 渡部 拓哉

はじめに

ひたちなか市は茨城県のほぼ中央に位置し、実り豊かな那珂台地と那須岳を源流とする那珂川のほか、美しい碧い海が広がる太平洋に面した水と緑に囲まれたまちです。また、海岸線沿いの1,182haに及ぶ広大な面積を有するひたちなか地区においては、多くの観光客が訪れる国営ひたち海浜公園や、国内外に航路を持つ茨城港常陸那珂港区が立地するとともに、企業進出により多くの雇用が生まれてきた工業団地では、県による新たな工業団地造成事業が進められるなど、北関東の中核拠点として発展を続けています。

一方で、本市の人口は、平成25年以降減少へと転じており、今後もこの傾向は続くことが予測されています。さらに、都市の空洞化や生活利便性の低下が懸念されるなど、社会経済情勢や都市構造の変化により生じる課題への対応が求められています。このような状況を背景に、これからのまちづくりにおいては、「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造を確立していくため、将来にわたって都市機能を維持・集約する市内4つの都市拠点を中心に社会資本整備に取り組んでいます。

特に近年、都市拠点のひとつである佐和駅周辺地区においては、第3次総合計画に定める目指すべき将来都市像の実現に向けた取り組みを積極的に進めてきました。



ひたちなか市の将来都市構造図

佐和駅周辺地区の現状と課題

本市北部に位置する佐和駅周辺地区は、駅周辺の既存市街地について、土地区画整理事業を主体に整備を進め、居住者の利便性に資する商業施設や良好な住宅地が適切に配置され、利便性と快適性を備えた市街地が広がっています。

一方この地区は、JR常磐線佐和駅の改札が西口のみであったことから、駅前広場の混雑や歩行者・自転車利用者の危険な踏切横断などが課題となっており、鉄道横断部周辺の幹線道路においては、交通渋滞が日常化し、市民生活や企業の経済活動などに影響を与えていました。また、緊急輸送道路となっている幹線道路網の確立も、防災力強化のため、早急に取り組むべき懸案となっています。

このような状況下で、令和6年度中の事業完了を一つの節目とし、都市構造再編集中支援事業を活用して、都市基盤の整備・再編を重点的に進めてきました。

都市構造再編集中支援事業の概要

- 地区名 佐和駅周辺地区
- 面積 159.6ha
- 事業期間 令和元年度～令和6年度
- 基幹事業
 - 東西自由通路・新駅舎整備
 - 西口広場改修、東口広場交流空間整備
 - 西口・東口北・東口南自転車駐車場整備
 - 東口アクセス道路整備、駅周辺歩道バリアフリー化
 - 東中根高場線整備（街路事業と併用）

東西自由通路・新駅舎整備について

佐和駅周辺地区整備事業の柱として、交通結節機能の充実・強化を図るため、JR東日本水戸支社と共に東西自由通路の整備と駅舎の橋上化を一体的に進めることとしました。

この佐和駅の整備にあたっては、新たな拠点として賑わいの場となることを期待する声が高く、住民説明会のほか、茨城大学や地元の佐和高校との意見交換などを通し、広く意見をくみ取りながら、新しい駅のデザインを決定しました。その結果、この地区のシンボルに相応しい存在感のある外観と、佐和の「和」に因んだ和みを感じる明るい雰囲気の内観のほか、地名の

由来である「沢」の流れを施設デザインに取り入れるなどして、計画決定から約5年の年月を経て令和5年9月に新しい地域の拠点として生まれ変わりました。



待合スペースを設けた東西自由通路

■東口広場・西口広場等の整備について

東西自由通路・新駅舎整備に合わせ、利便性と安全性の向上、駅周辺地区の拠点性などを相乗的に高める取り組みとして、東口広場の整備や西口広場の改修、駐輪場整備、駅周辺のバリアフリー化などを一体的に進めてきました。

特に駅前広場の整備にあたっては、「交通広場に交流広場を。駅と広場が呼応する空間に。」のコンセプトのもと、地域の方々も憩い集うことができる交流空間を確保するとともに、広場全体はモノトーンの落ち着いた配色とし、雨よけシェルターや車止めなど広場を構成する工作物は直線的でシンプルな形状とするなど、駅と調和したデザインを心掛けました。また、令和6年12月に完成した東口広場では、地元の商工会議所によりイルミネーションが催されるなど、賑わい創出に向けた取り組みが、早くも始まっています。



イルミネーションで賑わう東口広場

■都市計画道路東中根高場線整備について

交通の円滑化や広域的な地域間の連携強化など重要な役割を果たすことが期待される都市計画道路東中根高場線においては、JR常磐線横断部周辺で日常化している交通渋滞の緩和と防災機能の向上に資するため、鉄道を跨ぐ高場陸橋の北側に新橋を増設し4車線化を図る取り組みを進めてきました。平成30年度の事業認可取得から約7年にわたり整備を進めてきた高場陸橋は令和6年12月に完全4車線化したことで、市民からは渋滞が減少し交通の流れがスムーズになったとの声が早くも届いています。



完全4車線化した東中根高場線の高場陸橋

■今後の展望

佐和駅の東口エリアでは、引き続き土地区画整理事業による都市基盤整備や良好な居住環境の形成に向けた取り組みが進められるなど、佐和駅を中心とする地域のさらなる発展が期待されるそうです。

今後とも、地域の方々がまちへの愛着や誇りを持つことができるよう、次の世代に継承できるようなまちづくりを目指していきます。



新たに生まれ変わった佐和駅と東口広場